2020年度山梨県立大学地域研究交流センター事業
共同研究報告書

オンラインによる高校進学ガイダンスの実施と高校進学後の日本語指導
―新たなフェーズへ向かう実践と研究―

＜研究代表者＞
萩原　孝恵　　山梨県立大学　国際政策学部
＜共同研究者＞
池田　充裕　　山梨県立大学　人間福祉学部
斉藤　祐美　　山梨外国人人権ネットワーク・オアシス
小林　信子　　ユニタス日本語学校
原田　かおり　やまなし子ども学習支援連絡協議会、山梨県立大学非常勤講師
川手　ちなみ　ソルデアミーゴ太陽の友だち

１．　はじめに

本プロジェクトは、日本語能力が十分でないという理由や経済的な理由で高校進学をあきらめなければならないと考える外国人保護者とその子どもたちへの教育支援を目的としている。この目的は、2015 年に「多言語による高校進学ガイダンス」を山梨県で初めて開催して以来、変わらない。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「密閉」「密集」「密接」といった 3 密を避けなければならない状況となり、これまで行ってきた対面式での実施が難しかった。中止も検討したが、子どもたちの将来につながる「高校入学」や「高校進学後」に関する情報提供を止めてはいけないと考え、オンラインで開催することを決めた。今年度は、山梨県のような、公共の交通機関が不便な地域におけるオンラインでのガイダンスの有効性・可能性を探ることを目的として始動した。

２．　実施概要

本プロジェクトでは二つのテーマに取り組んだ。一つは〈実践〉で、「オンラインによる高校進学ガイダンスの実施」について、もう一つは〈研究〉で、「高校進学後の日本語指導」についてである。

前者の〈実践〉は、2015 年以降、地域研究交流センター事業として継続してきた「多言語による高校進学ガイダンス」を、こうしたコロナ禍であっても止めないために挑戦した、新たな開催の形態である。この事業への応募準備を始めた 2020 年 5 月 8 日時点において、共同研究者が「オンライン・ガイダンス」の国内での実施状況について中国帰国者支援・交流センターに問い合わせたところ、「現時点では開催されていない」との回答であった。しかし、日本語指導が必要な外国人生徒にとって「高校進学」「高校卒業」は「ライフチャンス」となりうる。ウェブ会議システムの利用は未知の状況であり不安もあったが、こうした教育支援は〈継続〉が重要であると考え、実施を決めた。折しも文部科学省総合教育政策局は、「臨時休業期間における外国人児童生徒等に対する学習指導・支援の留意事項等について」（令和 2 年 5 月 13 日付）[1] の中で、その対応策として ICT の活用を挙げていた。これは主に学習支援に関する言及であったが、本県のように公共の交通機関の利便性の低い地域においては、対面式にとらわれていた開催形態を見直す良い機会であった。

後者の〈研究〉は、山梨県内で外国人生徒等に対する特別措置（日本語指導）を行っている 3 校（中央高校、笛吹高校、都留興譲館高校）に関する調査結果の公表である。当該調査の有効性については、2019 年度の事業報告書[2] の中で言及しており、今年度はその調査結果を国際政策学部の紀要に投稿した。

---

1 文部科学省「臨時休業期間における外国人児童生徒等に対する学習指導・支援の留意事項等について」https://www.mext.go.jp/content/20200513-mxt_kouhou02-000007000_1.pdf, 2021.02.22 閲覧.

2 萩原孝恵（研究代表者）「日本語指導が必要な外国人児童生徒のライフチャンス―高校進学から卒業までの支援体制構築に向けて―」『山梨県立大学地域研究交流センター事業 2019 年度研究報告書』pp.61-74.

図 1 に示した小西（2007）による「子どものライフチャンスの相互関連モデル」は、本プロジェクトが取り組む〈実践〉と〈研究〉をつなぐ見取り図である。

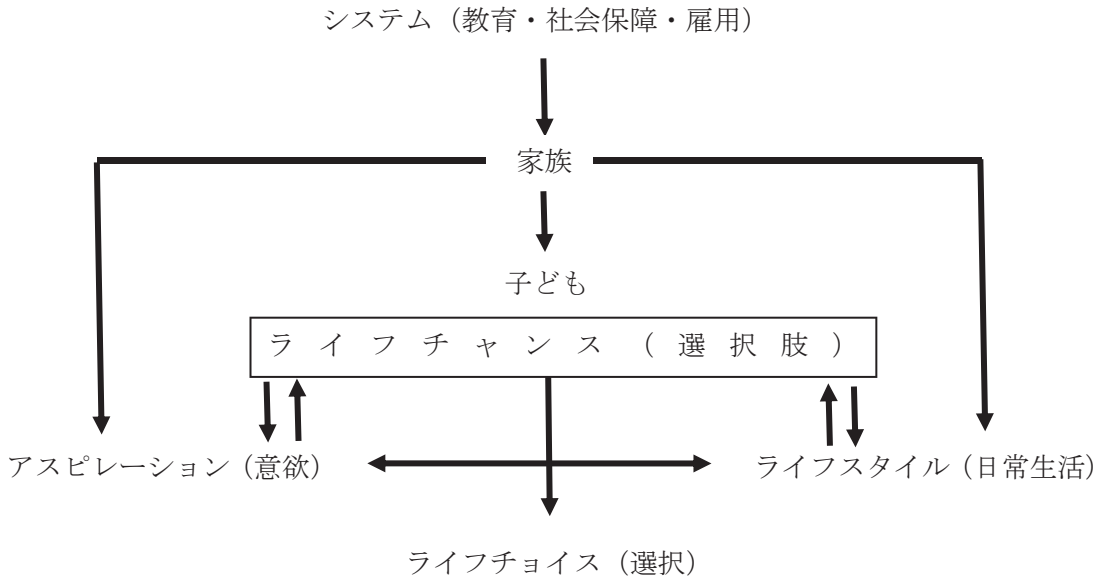
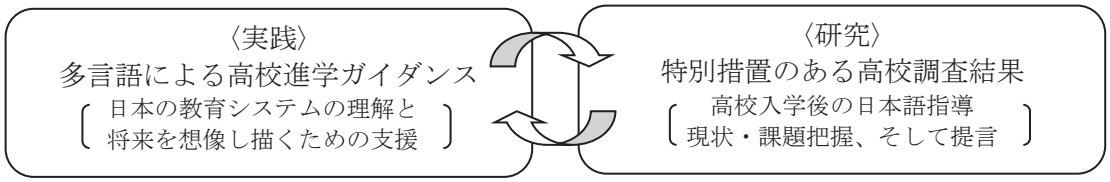


図 1　子どものライフチャンスの相互関連モデル（小西 2007:115）[3]

小西（2007）によれば、子どもの「ライフチャンス」は、まず「家族」の影響を受け、そして「家族」はその上位にある「システム」（教育・社会保障・雇用）の影響を受けるとされている。日本語指導が必要な外国人児童生徒にとって、「高校入学」そして「高校卒業」は、一つの「ライフチャンス」である。本プロジェクトでは、子どもの「ライフチャンス」を、下記に示す〈実践〉と〈研究〉の双方からアプローチすることにより、課題解決に取り組んだ。



３．　実施体制

本プロジェクトの実施体制は、〈実践〉と〈研究〉の二つに分けられる。〈実践〉では、多様な立場でかかわる協働、〈研究〉では、国際政策学部と人間福祉学部の教員による共同により、課題解決に取り組んだ。

[3] 小西祐馬（2007）「子どもの貧困とライフチャンスの不平等」岩川直樹ほか（編）『貧困と学力』pp.114-131、明石書店.

〈実践〉・・・多様な立場でかかわる協働実践

- 協働実践者

  萩原孝恵（大学）、斉藤祐美（支援団体）、小林信子（日本語学校）、原田かおり（協議会、大学）、川手ちなみ（支援団体）

- 実践成果

  オンラインによる高校進学ガイダンス初開催

〈研究〉・・・国際政策学部と人間福祉学部の教員による共同研究

- 共同研究者

  国際政策学部　萩原孝恵（専門分野：日本語教育）

  人間福祉学部　池田充裕（専門分野：教育学）

- 研究成果

  投稿誌：『山梨国際研究』第 16 号、pp. 73-81.

  題　目：「山梨県の日本語支援体制に関する調査―公立高校における特別措置の意義―」

図 2 は、本プロジェクトにおける〈実践〉と〈研究〉のネットワークである。

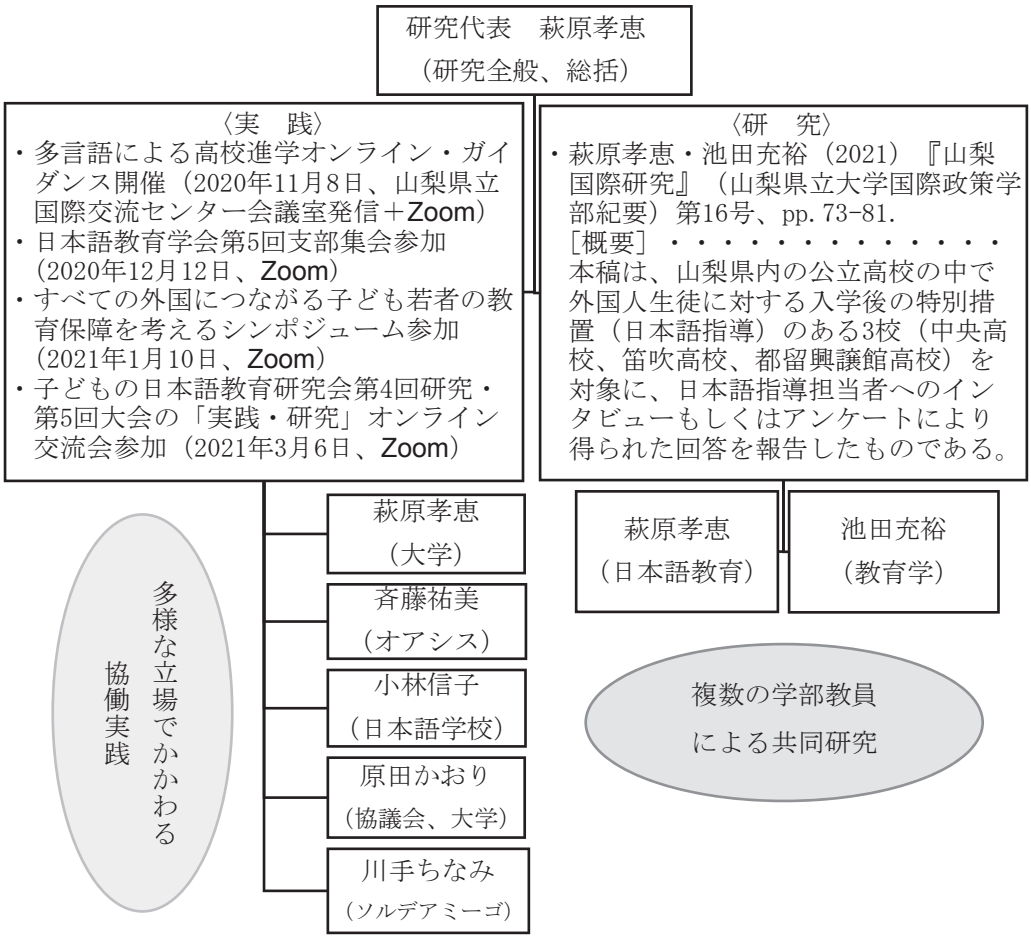


図 2　〈実践〉と〈研究〉のネットワーク

なお、〈研究〉については、「山梨県の日本語支援体制に関する調査―公立高校における特別措置の意義―」という題目で、『山梨国際研究』（第 16 号、pp. 73-81）に掲載しているため、以下では〈実践〉について報告する。

４．　多言語による高校進学ガイダンス in 山梨

４．１　これまでのガイダンス開催（2015 年～2020 年度、全 10 回）

山梨県内で県独自の「多言語による高校進学ガイダンス」を継続して開催していくことは重要かつ必要な取組である。今年は、2015 年から数えて 10 回目の開催となった。

表 1 は、第 1 回（2015 年度）から第 10 回（2020 年度）までの参加者一覧である。図 3 は、参加者数の推移と参加者の国籍である。第 10 回目となった今年は、初めてオンラインで開催した。これまでの参加者数は、延べ 207 人、見学者も含めると延べ 270 人となった。

表 1　参加者一覧（第 1 回～第 10 回）

回数	開催日	参加者													見学者	合計
		アメリカ	アルゼンチン	インド	台湾	中国	日本	フィリピン	ブラジル	フランス	ベトナム	ベネズエラ	ペルー	小計(組数)		
1	2015年11月29日	1	―	―	1	2	3	―	7	―	―	―	―	14(10)	11	25
2	2016年7月3日	―	―	―	―	10	1	―	6	―	―	4	6	27(9)	3	30
3	2016年10月30日	―	―	1	―	5	1	―	5	―	3	2	2	19(11)	5	24
4	2017年7月2日	1	―	―	―	14	2	2	5	2	―	2	―	28(11)	6	34
5	2017年11月12日	―	3	―	―	―	1	1	10	―	4	2	2	23(9)	5	28
6	2018年7月8日	―	―	―	―	2	―	―	6	―	―	―	3	11(5)	4	15
7	2018年11月4日	―	―	―	―	5	1	2	8	―	―	―	2	18(9)	7	25
8	2019年6月30日	―	―	―	―	5	―	―	13	―	―	―	―	18(8)	10	28
9	2019年11月17日	―	―	―	―	12	2	2	15	―	2	―	8	41(18)	7	48
10	2020年11月8日	―	―	―	―	2	―	―	6	―	―	―	―	8(5)	5	13

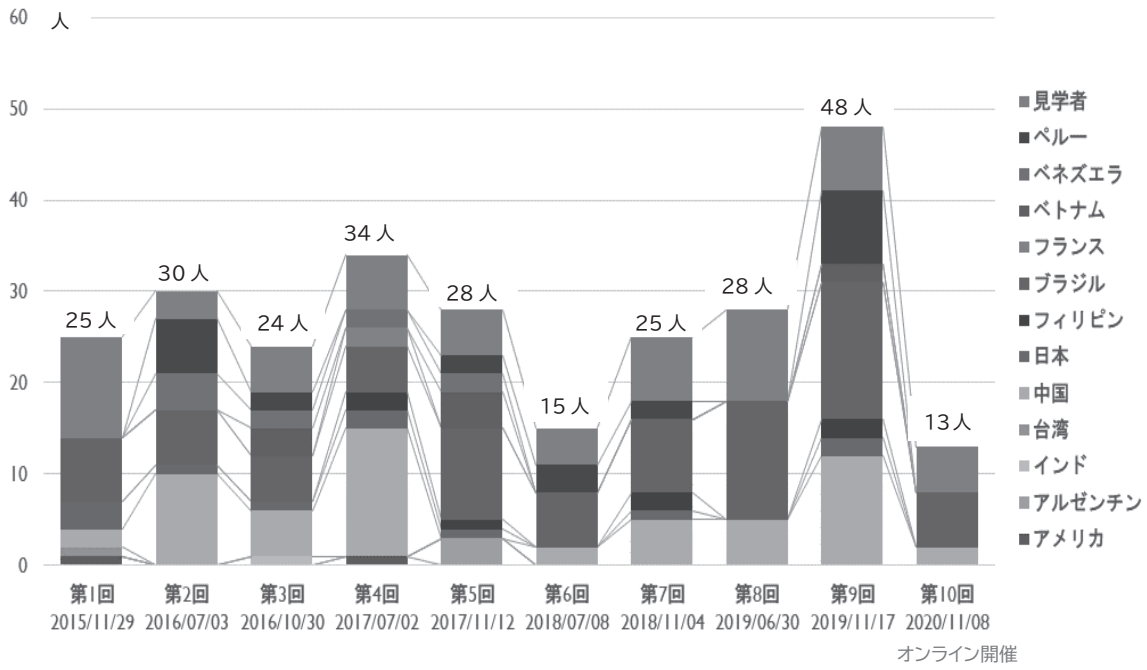


図 3　参加者数の推移と参加者の国籍（第 1 回～第 10 回）

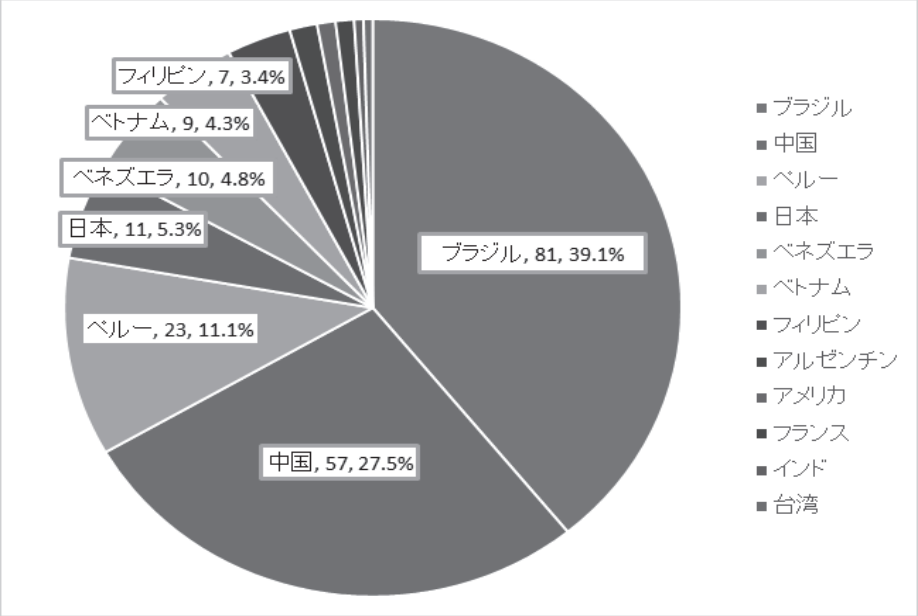


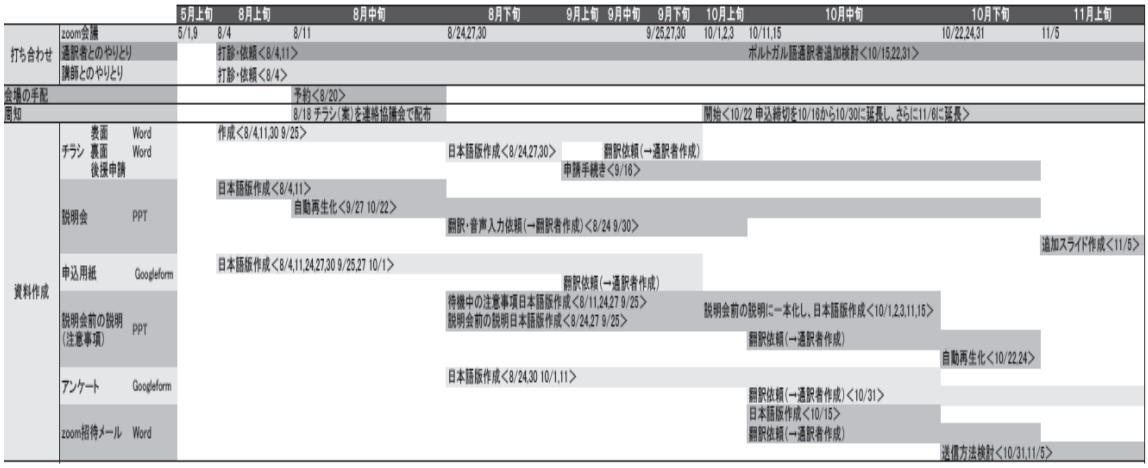
図 4　参加者数と参加者の国籍（第 1 回～第 10 回、N=207）

図 4 は、過去 10 回の参加者数と参加者の国籍について示したものである。最も多いのがブラジルで 81 人（39.1%）、次が中国で 57 人（27.5%）、3 番目がペルーで 23 人（11.1%）である。ブラジル、中国、ペルーを合わせると 77.7%になり、この 3 か国でほぼ 8 割を占める。「山梨県内の在留外国人数」[4]で 5 位の韓国と 7 位のタイは、これまで参加者が一人もいない。理由は不明だが、一つの傾向と捉えることができる。参加者に関する当該結果は、山梨県内で必要とされる支援の傾向を示している。

4．2　オンライン・ガイダンスの準備

今年度のガイダンスは Zoom を利用して開催した。表 2 は開催までの工程表である。

表 2　オンライン・ガイダンス開催 工程表（斉藤作成）



[4] 山梨県国際交流協会「山梨県内の在留外国人数」（令和 2 年 6 月末現在）http://yia.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2021/01/gaikokujinsu_2020-6.pdf, 2021.03.09 閲覧.

オンライン・ガイダンス開催にあたり、表 2 に示したように、オンライン用の資料作成と多言語化に時間を要した。会議は 19 回開催した（後掲【資料 1】）。また、(1)（2）の日程で、当日までに 2 回シミュレーションを行った。

（1）2020 年 9 月 30 日（水）　スタッフ：4 名（Zoom）

（2）2020 年 10 月 10 日（土）　通訳者、講師、協力者、スタッフ：計 15 名
（山梨県国際交流センター 大会議室 & Zoom）

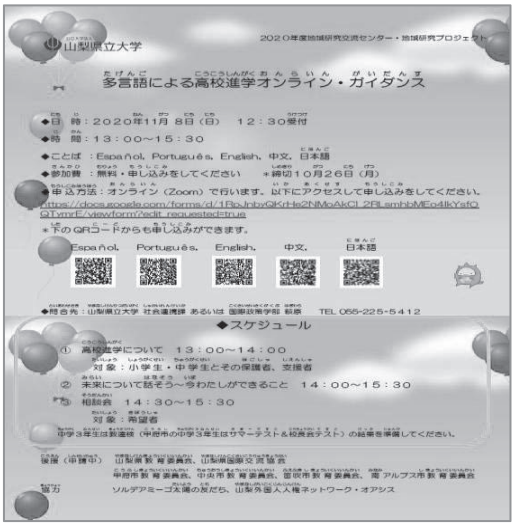
1 回はスタッフのみで Zoom の操作確認、2 回目は当日使用する会場で行った。なお、ガイダンス開催後の振り返りの中で、当日インターネット上の様々なトラブルが起こったことから、会場でのシミュレーションは、1 回ではなく、最低 2 回は必要ではないかという意見が出された。



会場でのシミュレーションの様子（2020 年 10 月 10 日）

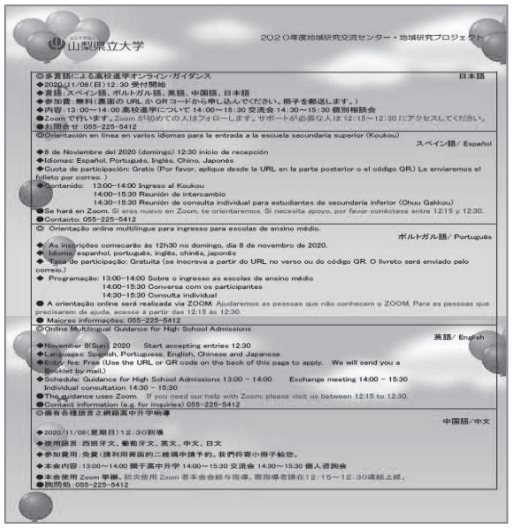
４．３　オンライン・ガイダンスの実施

今回のオンライン・ガイダンスでは、下記のようなチラシ（両面 1 枚印刷）を作成し、周知活動を行った（後掲【資料 2】）。また山梨県教育委員会を通じて、外国人児童生徒への配付に協力していただいた。これまでの開催方法と異なるのは事前申込制とした点である。



チラシ表面

（URL/QR コードから申込）



チラシ裏面

（5 言語対応：日本語、スペイン語、ポルトガル語、英語、中国語）

申込者には、当日の資料として、昨年度の地域研究交流センター事業で作成した冊子「山梨県の高校進学ガイダンス」（7 言語対応）を郵送し、資料を見ながら参加していただけるようにした。

～第 10 回多言語による高校進学オンライン・ガイダンス概要～

（1）日時	2020 年 11 月 8 日（日）13 : 00～16 : 30（ガイダンス 15 : 30 終了）
（2）開催方法	Zoom
（3）申込方法	事前申込制（URL もしくは QR コードからアクセス）
（4）事前申込	19 人
（5）当日参加者	13 人（ブラジル 6 人、中国 2 人、見学 5 人）
（6）冊子配付	事前申込者に「山梨県の高校進学ガイダンス」（7 言語対応）郵送
（7）発信会場	山梨県国際交流センター 会議室（アイオワ・四川・忠北・ミナス）
（8）情報提供	各会議室を母語別に分けて実施
（9）スタッフ	通訳者、講師、協力者、スタッフ：計 14 名（Zoom 参加者含む）
（10）後援	山梨県教育委員会、山梨県国際交流協会、甲府市教育委員会、中央市教育委員会、笛吹市教育委員会、南アルプス市教育委員会
協力	甲府市役所、山梨外国人人権ネットワーク・オアシス、ソルデアミーゴ太陽の友だち

≪実施内容≫

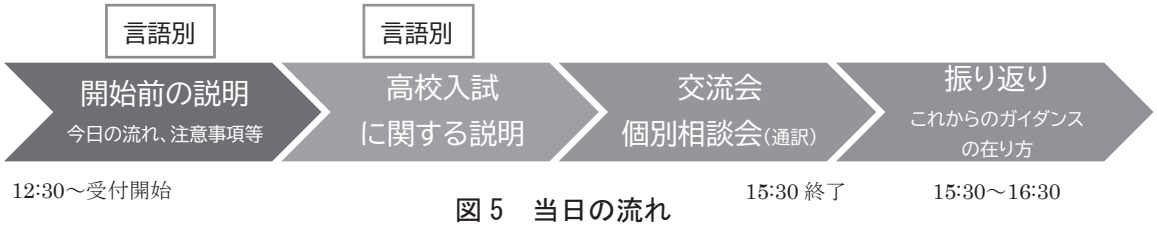


図 5　当日の流れ

図 5 に示した当日の流れについて説明する。当日は 12:30 に受付を開始した。入室が始まった時点で「開始前の説明」動画を言語別ブレイクアウトルームでそれぞれ流した。13:00 から「高校入試に関する説明」の動画を言語別ブレイクアウトルームでそれぞれ流した。各言語での動画による説明が終了した後、日本語のブレイクアウトルームに移動してもらい、質疑応答の時間を設けた。個別相談会に申し込んだ人は、通訳を介して中学校の先生方が対応した。並行して交流会を開いた。交流会については、次の 4.4 で報告する。

下記図 6 が当日のオペレーションである。今回のガイダンスでは Zoom を使用し、メインルームに司令官一人が待機し、入退室・ブレイクアウトルームへの移動・トラブル対応などのサポートをした。ブレイクアウトルームは、事前申込から日本語・中国語・ポルトガル語・スペイン語の 4 室を作成して運営した。

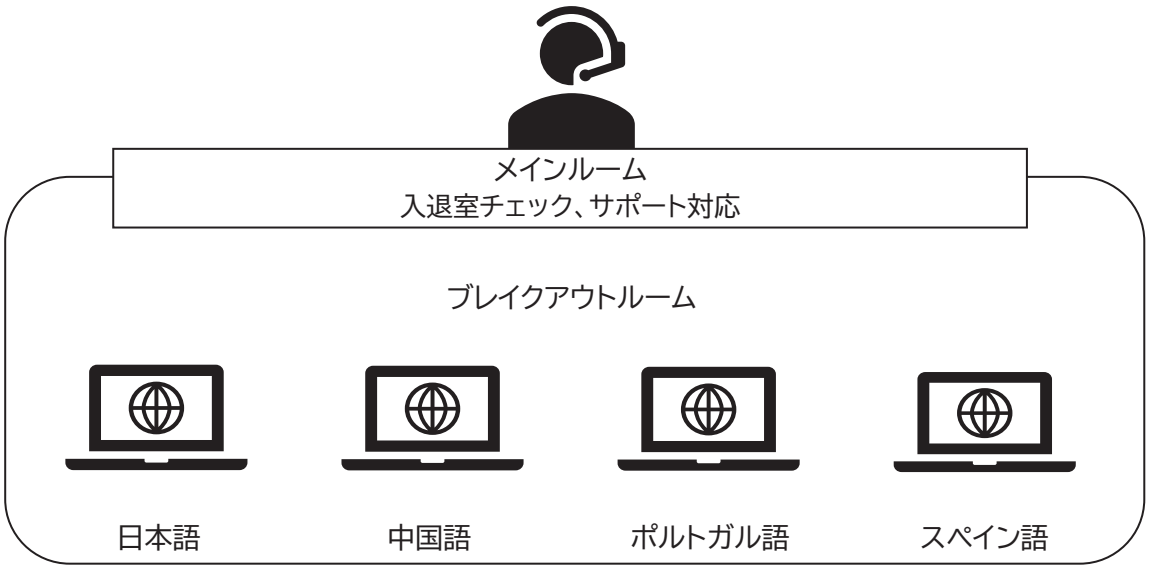
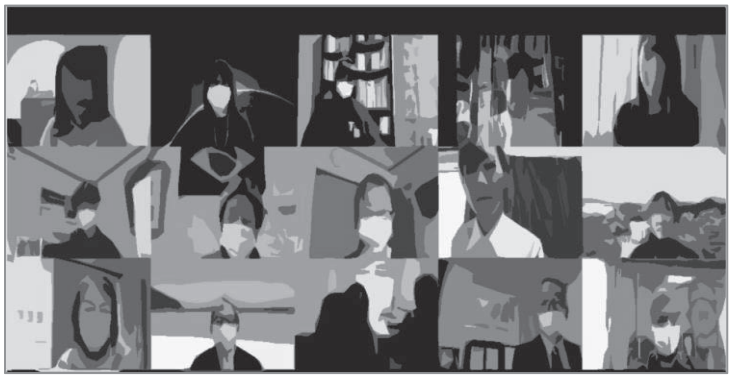


図 6　当日のオペレーション（Zoom）

４．４　交流会：外国にルーツのある子どもが抱える問題

交流会には、外国にルーツのある学生、日本人学生、外国にルーツのある OG、外国人保護者、通訳者、教員、教育委員会、スタッフなど、様々な立場の人が参加した。



交流会の様子（Zoom）

交流会では、外国にルーツのある学生 2 名と本学 OG1 名から、子どもの頃の経験や困ったことなどに関する話を聞いた。交流会で語られた話を一部抜粋し紹介する。

子どもが通訳	大人の代わり	様々な壁
・日常生活で通訳をした。 ・三者面談で通訳をした。 ・三者面談で通訳をした際に自分に都合のいいように親に伝えていた。	・市役所に連れて行かれ、子どもの自分が両親に代わり手続きをしていた。 ・他の日本人の子どもを見て、どうして自分だけと思っていた。 ・高校受検があることを中学2年生まで知らなかった。 ・特別措置の制度について、担任の先生もよくわかっておらず、すべて自分でやらなければならなかった。	・自分の日本語に自信が持てず、全く話せない時期があったが、取出しの日本語指導で話す練習をしてもらい、そのおかげで自信がついて話せるようになった。 ・小さい頃、自分の母親が中国人であることを友達に言えなかった。

４．５　振り返り：これからのガイダンスの在り方への提言

振り返りには、教育委員会、小中学校教員、大学教員、通訳者、学生、スタッフが参加し、山梨県におけるこれからのガイダンスの在り方について意見交換をした。振り返りの内容は録音して書き起こし、KH Coder[5]（フリー・ソフトウェア）で発言内容を可視化した。図7が発言内容の共起ネットワーク図である。図中右のSubgraphの色番号に基づき、以下で説明する。

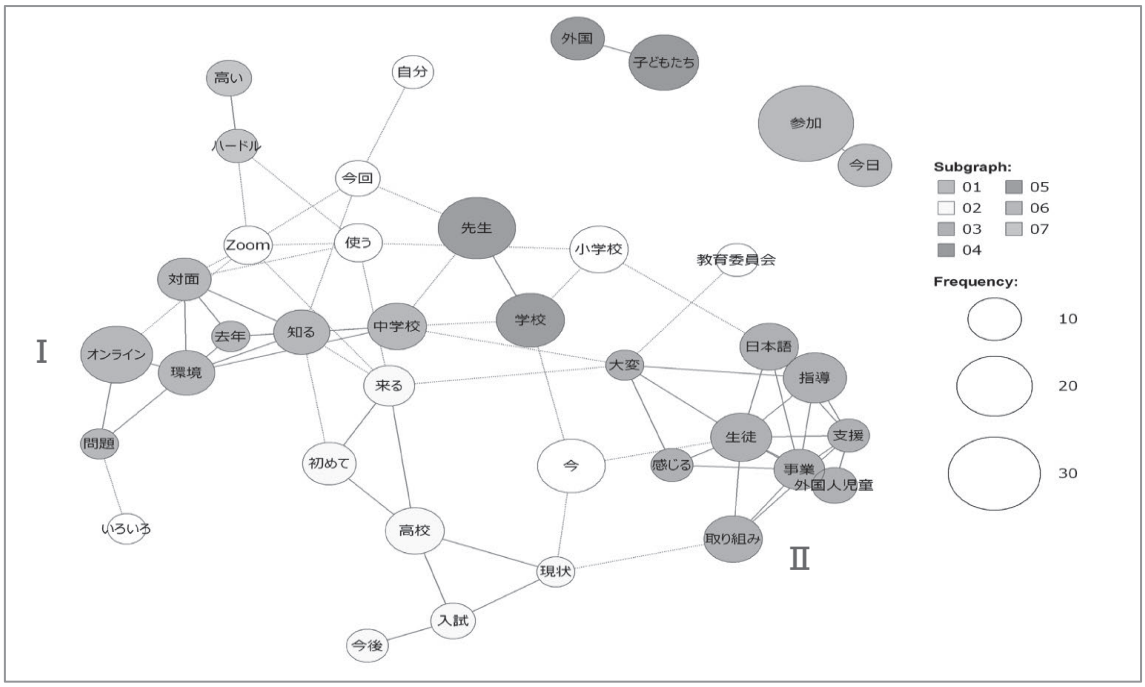


図７　参加者の発言から抽出された語が示す現在の状況（KH Coder ネットワーク図）

まず発言で使用された語の共起関係から、振り返りで語られた内容は以下の 7 つのトピックについてであった。

- 01　参加した感想、参加者が少なかった理由
- 02　高校入試、現状、今後の入試に関すること
- 03　外国人児童や指導・支援・事業・取組に関すること
- 04　外国にルーツのある子どもたちのこと
- 05　先生方はこうした取組をもっと知るべき、小中学校で開催できないか
- 06　去年は対面、オンライン・環境、いろいろ問題あり
- 07　Zoom を使うのはハードルが高い

振り返りの発言を通して「教育委員会」というワードがSubgraphの外にあること、つまり共起が見られないことが示された。当該結果は、今後のガイダンス開催への取組に関する課題となっていくと考えられる。

[5] KH Coder3（3.Beta.02f）を使用した。（参考文献：樋口耕一（2020）『社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－』ナカニシヤ出版）

次に具体的な発言内容を紹介する。紙幅の都合により、ここでは今回の〈実践〉に関連する２語（Ⅰ.オンライン、Ⅱ.取組）をキーワードとして紹介する。２つのキーワードを通して語られた、山梨県におけるこれからのガイダンスの在り方について提言する。

キーワードⅠ．　オンライン（「オンライン」が使用された発言例）
初めてのオンラインで、可能性を感じた。
対面でしていた去年までの形もいいけれど、オンラインを併用すると可能性が広がる。
学校の中でオンラインでやってもらえる環境が整えばと思う。
キーワードⅡ．　取り組み（「取組」が使用された発言例）
ガイダンスは施策的に進めるようにとの方向性、各自治体での取組が求められている。
初めて参加させていただいて、素晴らしい取組だと思った。
この取組を県として進めていけるように考えていきたい。

４.６　実施後のアンケートから見えてきたこと

ガイダンス終了後に、Google フォームによるアンケート（5 言語対応）を実施した。回答期間はガイダンス開催日から 10 日目までとし、集計した。回答数は 20 であった。



≪質問項目≫

1. 今日は何を使って参加しましたか。(複数回答可)
2. オンライン・ガイダンスで何か困ったことがありましたか。(複数回答可)
3. 来年またガイダンスがあるとしたら、オンラインと会場のどちらに参加したいですか。
4. 参加したい理由は何ですか。(複数回答可)
5. ガイダンスに参加して感じたこと・気づいたことを自由に書いてください。

以下、質問項目順に回答結果を示す。(　)内の数字は回答数（複数回答あり）である。

1. 当日使用した機器・・・

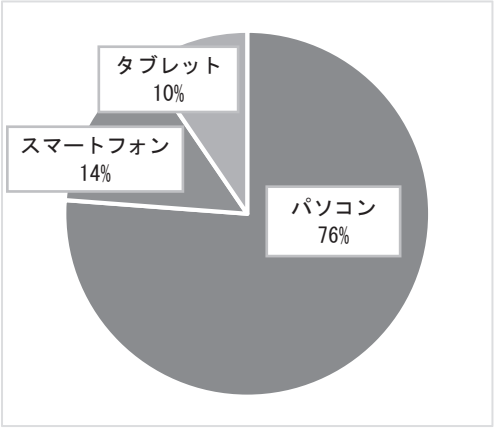


図８　参加時の使用機器

2. ガイダンス中に困ったことは・・・
   - 声が聞こえないときがあった（5）
   - 特になし（4）
   - 誰かに助けてもらわなければならなかった（2）
   - ハウリングが起きた（2）
   - 途中でネットが切れた（2）
   - 少しバタバタしていた（2）
   - 画面がフリーズした（1）
   - ブレイクアウトルーム（中国語部屋）に入れなかった（1）

3. 来年ガイダンスがあるとしたら、オンライン？ それとも会場？・・・
オンラインで参加したい 55%（11）　会場で参加したい 45%（9）

4. オンラインで参加したい理由・・・
・移動しなくていいから　・忙しいから　・時間がないから
会場で参加したい理由・・・
・直接話が聞きたいから　・他の参加者と話したり話を聞いたりしたいから
・声がよく聞こえなかったから　・目が疲れたから　・Zoom に慣れていないから

5. ガイダンスに参加して感じたこと・気付いたこと（一部紹介、ママ）・・・
≪感じたこと≫
・こんなにもたくさんの方々が支援なさろうとしている姿を見ると、今、学校現場で大人たちの助けを必要としている生徒たちは非常に嬉しく、頼もしいだろう。特に県大の学生たちの話は、感動・感激した。次回はもっと外国にルーツを持つ生徒たちとも話してみたい。自信をなくしたり挫けることがあっても、周りには助けてくれる人が実はいっぱいいるので、努力することを忘れずに強くあってほしいと思った。保護者への支援や日本語支援も必要、さらに欲を言えばせっかくの自己の強みやルーツを失わないためにも母語教育の支援の必要性も感じる。
・県の教育委員会の担当指導主事にご参加していただけたのは、とても大きかったと思います。県での取り組みも聞けましたし、本ガイダンスでの状況等を、施策実施の参考にしていただけるのではないかと感じました。また県立大のルーツを持つ学生さんたちに参加していただけたのは、交流会の運営上本当によかったと思います。私自身勉強になったり、元気をもらえたりしました。中学生たちにも聞かせてあげたいなあと思いました。また初めてのオンラインでの実施になり、課題も多くあったと思いますが、可能性も大きく感じられました。来年以降につながる、とても有意義だった本年度のガイダンスだったと思います。
・多文化教育、外国人児童支援に興味があったのでとても勉強になりました。そして身近に今回のような支援が行われていること、支援したいと思っている先生方や職員の方が沢山いることを知り、ますます支援について学びたくなりました。
・とても良い取り組みだと思いましたので、今後もっと周知し、対面とオンラインの両面で参加者が増えるといいなと思いました。試験、進学に関わる内容は難しい日本語を使いがちなので、そのあたりをもう少しわかりやすい日本語で伝えられると良いのかなと思いました。また交流会でも日本語でどんどん進んでいたので、参加者の方はどう感じたかなと気になるところです。
・参加して 2 年目になります。こんなにもたくさんの方が山梨で困っていると知り、もっと周りの人にも知ってもらいたいという気持ちが強くなりました。

≪気付いたこと≫

・途中で参加する人がわかりにくかった。参加者の反応がわかりにくかった。
・一番乗りでアクセスしてくれた iPhone の人は結局入室できなかった。誰なのかわからないため、連絡することもできず、こうした場合にどうすればよいのか、検討が必要。
・ガイダンス中、スタッフが話す声が入っていた部分があり、耳障りだった。
・今回は初めての zoom でのガイダンスだったので外国人の方でパソコンに慣れていない年代の保護者が参加したりする場合もあったと思うので先生方も含めて zoom の使い方などのガイドもパンフレットなどに説明を入れても良かったのではないかと思いました。
・オンライン・ガイダンスは初めてだったからだいたい良いと思う。でも場所は良くなかったと思う。どうしてかと言うと、パソコンが多かったから WIFI の問題がおこったから。

５． プロジェクトの意義

本プロジェクトの意義は、「外国人の子供の就学促進及び就学状況の把握等に関する指針」（文部科学省、令和 2 年 7 月 1 日）[6]に明記されている。文部科学省は、この指針の中で、令和元年 5～6 月にかけて実施した「外国人の子供の就学状況等調査」[7]により、「約 2 万人の外国人の子供たちが就学していない可能性がある、又は就学状況が確認できていない状況にある」という実態を受け、以下のように言及し、その方向性を明らかにしている。本プロジェクトに関連する言及に下線を引き[8]、本取組がいかに重要かつ必要であるかを示す。

> １．趣旨（一部抜粋）
> 外国人の子供たちが将来にわたって我が国に居住し、共生社会の一員として今後の日本を形成する存在であることを前提に、日本における生活の基礎を身に付け、その能力を伸ばし未来を切り拓くことができるよう、外国人の子供に対する就学機会の提供を全国的に推進することが必要である。
> ３．学校への円滑な受入れ
> （1）～（5）省略
> （6）高等学校等への進学の促進
> 外国人の子供が社会で自立していくためには、高等学校等において適切な教育を受けることが重要である。このため、高等学校等への進学を促進する観点から、教育委員会において以下の取組が求められる。
> ● 中学校等において、 在籍する外国人の子供やその保護者に対し、早い時期から進路ガイダンスや進路相談等の取組を実施すること [6]

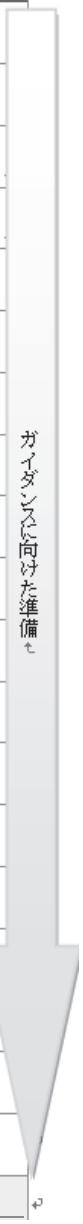
[6] 文部科学省「外国人の子供の就学促進及び就学状況の把握等に関する指針」（令和 2 年 7 月 1 日）https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/004/1415154_00003.htm, 2021.02.21 閲覧.
[7] 文部科学省「外国人の子供の就学状況等調査結果（確定値）について」（令和 2 年 3 月 27 日）https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/09/1421568_00001.htm, 2021.03.08 閲覧.
[8] 下線は筆者による。

６．　おわりに

今年度のガイダンスは、参加者の数は少なかったものの、今後の山梨県におけるガイダンスの在り方に新たな可能性を見出した。「来年もガイダンスはあるか、あるなら参加したい」という参加者の言葉は、この取組の必要性と有用性を示している。近い将来、行政や教育委員会が主体となり、ICT を活用した取組へと発展していくことになるであろう。その取組には、外国にルーツのある子どもたちと関わる一部の教員だけでなく、多くの教員が関わっていく未来が望まれる。

【資料１】　2020 年度　活動記録

2020 年度（実践）への取組	
第 1 回	2020 年 5 月 1 日（金）15:00-18:00　オンライン会議 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 2 回	2020 年 5 月 9 日（土）13:00-15:00　オンライン会議 出席者：土屋賢一郎、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 3 回	2020 年 8 月 4 日（火）18:30-21:30　オンライン会議 出席者：今澤悌、土屋賢一郎、萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 4 回	2020 年 8 月 11 日（火）19:00-24:00　オンライン会議 出席者：今澤悌、土屋賢一郎、萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 5 回	2020 年 8 月 24 日（月）13:00-17:00　オンライン会議 出席者：川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 6 回	2020 年 8 月 27 日（木）13:00-17:00　オンライン会議 出席者：川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 7 回	2020 年 8 月 30 日（木）13:00-16:30　オンライン会議 出席者：川手ちなみ、斉藤祐美、原田かおり
第 8 回	2020 年 9 月 25 日（金）16:30-20:00　オンライン会議 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 9 回	2020 年 9 月 27 日（日）9:00-13:00　オンライン会議 出席者：川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 10 回	2020 年 9 月 30 日（水）19:00-23:30　オンライン会議 出席者：川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 11 回	2020 年 10 月 1 日（木）16:00-24:00　オンライン会議 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 12 回	2020 年 10 月 2 日（金）13:30-15:00　オンライン会議 出席者：川手ちなみ、小林信子
第 13 回	2020 年 10 月 3 日（土）13:30-15:00　オンライン会議 出席者：川手ちなみ、小林信子
第 14 回	2020 年 10 月 11 日（日）10:00-15:00　オンライン会議 出席者：川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 15 回	2020 年 10 月 15 日（木）9:00-10:30　オンライン会議 出席者：川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 16 回	2020 年 10 月 22 日（木）18:30-23:45　オンライン会議 出席者：萩原孝恵、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 17 回	2020 年 10 月 24 日（日）19:30-21:00　オンライン会議 出席者：川手ちなみ、小林信子
第 18 回	2020 年 10 月 31 日（日）9:00-13:30　オンライン会議 出席者：川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 19 回	2020 年 11 月 5 日（木）18:00-23:30　オンライン会議 出席者：今澤悌、萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
オンライン・ガイダンス開催　2020 年 11 月 8 日（日）	



第 20 回	2020 年 11 月 19 日（木）16:30-19:40　オンライン会議 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 21 回	2021 年 1 月 10 日（木）16:30-19:40　オンライン会議 出席者：川手ちなみ、小林信子
第 22 回	2021 年 1 月 28 日（木）15:30-18:30　オンライン会議 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 23 回	2021 年 2 月 1 日（月）13:30-17:00　オンライン会議 出席者：川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 24 回	2021 年 2 月 18 日（木）13:30-15:30　オンライン会議 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 25 回	2021 年 2 月 25 日（木）13:30-16:00　オンライン会議 出席者：小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 26 回	2021 年 2 月 27 日（土）14:00-17:00　オンライン会議 出席者：小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第 27 回	2021 年 3 月 1 日（月）15:00-19:00　オンライン会議 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
子どもの日本語教育研究会（実践）オンライン交流会参加　2021 年 3 月 6 日（土）	

振り返り

交流会参加に向けた準備

【資料２】　2020 年度　オンライン・ガイダンス周知活動

年/月/日	機関・場所(SNS,ML 含む)等	周知内容
2020/10/2	講師 [redacted]	メールでチラシを送信し、周知を依頼
2020/10/2	Facebook	チラシの投稿と、シェアの呼びかけ
2020/10/2	通訳 [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/2	通訳 [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/2	ユニタス [redacted]	メールでチラシを送信　高校進学希望の学生への声かけを依頼
2020/10/3	[redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/3	通訳 [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/3	通訳 [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/3	ユニタス [redacted]	メールでチラシを送信　以前相談があった高校進学希望の学生への声かけを依頼
2020/10/3	[redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/3	[redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/3	子どもサポート [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/3	ソルデアミーゴメンバー	メールでチラシを送信
2020/10/3	南アルプス市役所職員 [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/3	Bondplace [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/3	[redacted](ベトナム人)	メールでチラシを送信
2020/10/3	日本語ボランティアの会 [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/3	アルプス学園 [redacted]	メールでチラシを送信　faebookで呼びかけてくださるとのこと
2020/10/3	[redacted]通訳 [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/3	Facebook	チラシ掲載と、シェアの呼びかけ
2020/10/3	通訳 [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/3	山梨県立大学学生 [redacted]	チラシを渡し周知依頼
2020/10/3	[redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/3	サンジャパML	メールでチラシを送信
2020/10/7	講師 [redacted]	メールでチラシを送信し、今年度の講師2名（[redacted]と講師経験者5名（[redacted]）への周知を依頼
2020/10/8	オアシス子ども会　参加者とスタッフ	チラシを渡し周知依頼
2020/10/9	[redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/10	山梨県国際交流協会	当協会のfacebookに掲載
2020/10/10	[redacted]	個人のfacebook, メッセンジャー
2020/10/12	山梨県教育委員会 [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/12	[redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/13	南アルプス市教育委員会職員 [redacted]	チラシ手渡しとメール(にてチラシを送付
2020/10/16	山梨外国人人権ネットワーク・オアシスのサイト	サイトを管理している[redacted]にチラシの掲載を依頼
2020/10/16	ユニタスの学生 [redacted](ブラジル)	チラシを手渡し、参加をすすめた（お子さんが中2生）
2020/10/16	ユニタス学生 [redacted](中国)	チラシを手渡し、参加をすすめた（高校進学希望）
2020/10/16	[redacted]金曜クラスメンバー(ブラジル)	チラシを手渡し
2020/10/17	[redacted]中学校教員 [redacted]	チラシを渡し周知依頼
2020/10/18	山梨県立大学 [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/19	人間福祉学部 [redacted]	メールでチラシを送信、学生への周知依頼
2020/10/21	山梨県立大学学長から教育委員会教育長宛	「依頼状」発送
2020/10/22	スーパー「[redacted]	チラシを手渡し
2020/10/22	甲府市役所 [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/22	山梨学院大学 [redacted]	メールでチラシを送信
2020/10/23	山梨県立大学 [redacted]	lineでチラシを送信
2020/10/23	甲府市教育委員会 [redacted]	電話で依頼後、メールでチラシを送信
2020/11/4	甲府市役所 [redacted]	甲府市役所HPへの掲載のお知らせあり

ご協力いただいた団体＆みなさま（順不同、敬称略）

・山梨県教育委員会　・山梨県国際交流協会　・甲府市教育委員会
・中央市教育委員会　・笛吹市教育委員会　・南アルプス市教育委員会
・甲府市役所　・山梨県立大学地域研究交流センター
・山梨外国人人権ネットワーク・オアシス　・ソルデアミーゴ太陽の友だち
・土屋賢一郎　・今澤悌　・望月秀太　・浅尾秀樹
・安達研仁　・内村エデルシオ　・塚田寛　・パチェコ・アレクシス
・安田弘子　・白浜芳敏　・田村いや　・古屋光進